

# カンタータ 随想

高橋 昭

バッハのカンタータの言葉をきくと私はいつでも十数年前の不思議な感動を思いだす。それは初めてバッハの教会カンタータのレコードに接した時だった。演奏していたのはルイス・ミレ指揮のオルフェオ・カタラ合唱団……。シユヴァイワールが彼の自信「わが生活と思想より上の中言及してこのスベインの指揮者はバルセロナの合唱団を屈指のバッハ演奏団体に育てあげた。彼自身の解釈はシユヴァイワール、カサルス、ランドフスカなどのようにかなりローマン的傾向が強いにも拘らず、ハーモニーから溢れ出る演奏者の共感と愛情は正しくバッハの精神を我々に伝えてくれたのである。その後LP時代の到来と共に従々とカンタータの録音が開始され、それらもまた資料や文献としてしか接することのできなかつたバッハのカンタータが現実の音として手えられたのである。

今、そのお蔭で私たちは空の山にとりかこまれて

いること……。それはこのような状態になれば、当然のこととして受け入れることの代償として、我々が今まで持ちつづけてきたバッハのカンタータに対する憧れにも似た関心と愛情が薄くなってゆくのではないかと、うことである。もとよりバッハ自身は神への奉仕として、ごく日常的な仕事と考えながら作曲したのかも知れない。したがって我々にはなにも感懐しなげに内ならないという義務感をもってカンタータを演奏したり聞く必要はないか。このような美しい数々の音楽をのこしてくれたバッハへの感謝はかたときも忘れられはならない。私は今でも折折、オルフェオ・カタラのハーモニーを思い浮かべて自分のハバに對する態度を映す鏡としているのである。

愛情のないバッハ……。これは單なるヒシネスであり、聴く人の心をうつことはできないであろう。

皆さんとともに私もこの気持ちをつつまでも持ちつづけたいものである。

5月出席統計

	5-6	12-13	19-20	26-27	平均	(欠席)	(出席)
S	12	9	7	11	9.8	7	7
A	7	11	10	7	8.8	3	8
T	6	4	5	4	5	3	2
B	6	5	5	6	5.8	4	2
計	31	29	29	28	29	17	19

第3回 バッハゼミナール  
レコードによるバッハの宗教作品研究  
《バッハ 音楽の理解》

講師 辻 荘一  
日時 6月17日(月) 6.00PM.  
会場 美術家会館 6階ホール  
主催 バッハ合唱団  
会費 ￥100  
(団員・後援会員免除)

カンクータオの四番解説

ハンス・クリンユカート

香藤 祥三訳

十九世紀におけるバッハの再発見以来、この四番は聖トマス教会の指揮者や演奏したものの中でも著名なものの一つである。多くのバッハの伝記によると、このカンクータは重要な位置にあることがわかる。シニウアイワアーはそのバッハ伝の中、ゴッホらしい音色と完成された形式の魅力により、この作品は聴衆に強い影響を与え、バッハの作品というものは圧倒されしうになる懸念を払拭してくるもの一つであろうしと語っている。またバッハ研究家ファイワフ・シニヒツタは、「この作品は敬虔なバスターールであり、魅惑、優雅、格調が希なる美しさのうちに一体となっている。最初のコーラスの拍子は正確に読まねばならない。即ち、*Andante*としてではなく、*Adagio*であり、三連音符の動きからよりリズムカ的な動きへ変わって行く。又この部分では、シニセツトに似た動きのない低音が静かに流れて行く。構成の面から見ると又そこには芸術的な大傑作が配されている。音楽パートにおける同音の部分はフーがに発展し、ユニゾンで進んでいたオホエは強められやがて新しい陰影が付けられて行く。一方演奏者群は流れることきものと疎打つこときものとを

流く織り交して行く。バッハのこのようなものを作つたのはこれが最初であった。音の組合せや、音色の魔術や様式の上でこの作品と相違を得るものは、クリスマスオラトリオの中のバストラールシンフォニーであろうしとそのバッハ伝の中を述べている。

原本にはソプラノ、アルト、テイル、バス、オウアイオリン、オニウアイオリン、ナイオラ、二つの通奏低音のパート、オオホエ、オニオホエ、インクリウエホルンが含まれている。元来バッハは二つのオホエのみを用いるつもりであり、インクリウエホルンは附属的に加えるつもりであったらしい。この事はイングリウエホルンがほとんどオブリガートの部分を持たず、ウイオラがテイルに従属的に奏されることから考えて妥当なことと考えられる。

6月予定

- 2日(日) 例会(オ2練習場・午後4時)
  - 3日(月) 磯谷先生発声練習
  - 14日(金) オケ合せ(弓竹本郷教会)
  - 15日(土) オ2定期演奏会(弓竹本郷教会)
  - 16日(日) 聖堂反省会(オ2練習場)
  - 17日(月) オ3回バッハセミナー
- ◇ 7月・8月の2ヵ月間は、毎週日・月曜午後6時18時半 オ2練習場を練習を

することにし、芸術家会館ホールは、7月22日(月) オ4回バッハセミナー、8月26日(月) オ5回バッハセミナーの2回だけ使用することを、2日の例会で可決。

◇ 7月1日(合唱団創立一周年記念日) 午後6時19時 朝日ケル(芸術家会館前)で国員懇親会をします。会費400円 申込はT2 迄まで。

◎ 後援会に入会いただいた方々 (5月敬称略)

- 玉木福美子 山下 文治
- 田中 道子 高田 博彦
- 村井 靴子(国友) 永野 英昭
- 東川 清一

団員名簿追加 (6月3日現在)

- A 13 井口千枝子 (10)
- 14 井上 朋子 (6)
- 15 桜岡 やす子 (7)
- B 16 香藤 節子 (3)
- 8 西上 信義 (4)
- 9 植林 武寿 (9)
- 10 佐藤 文夫 (9)



# 親睦ハイキングのこと

S5 鈴木文子

五月三日、朝八時 吉祥寺駅集合。

下り線をまっすぐ立川まで行きそこから五日市線。日頃ラッコにもまわっているのに又もやこんな所だと余りいい気持はしませんか、おしゃべりして、もうちに五日市駅に到着。全員集まったところでバスののを。

（へんり）

人里でバスを降りてから昼食予定地に向って歩き出す。道はゆるい登り坂。一時間ほど山崎屋に着き、お茶をいって昼食。手当り次第その辺のものを食べておいしかったこと。そこで一通り自己紹介をする。その時の一人々の紹介を詳しく書いてみたい程、皆個性のある紹介で大変いしました。そのあと BUSCHENBERG を教って記念撮影をする。山崎屋を後にして目指すは三頭山の中腹の鞍口峠。少しづつ傾斜はきつくなる。森井先生は全員の差を縮めようと一番後からいらして「早く早く」とおっしゃる。途中危っかしいつり橋を渡って、川のそばで休憩。冷い水を飲むとホッとする。頂上までの上りは細く急な道で相当疲れる。休み休み登って頂上に到着。山崎屋でいたいで来たお茶を飲むお茶を飲む。暖かいお茶が

すくおいしい。一番上まで登った人達が「海が見えるぞ」と言うのが聞えてくる（うそばかり）ひと息ついたところでばら園のための練習をする。美しいハーモニーが山々にこだまして……といい気持はなっているうちに体がかくかくして来た。汗をかいた上、山の上の風はつよく寒くて寒くてたまらなくなる。これじゃ教うところではないということになり、ふるふるふるをなから下山。坂道を下るのは気持ちいい。走るようにして下って夢の境に到着。ここでテナーのHさんは他の団体にくっついて行ってしまった様子でいくら探しても見当らない。ところでその日は大まきれいでした。岩をとかいて倦まずぐんまで行き食料を聞く。その時、岩をとかいて（？）いる途中でトボンと水の中に足をつかひんが脱落。たき本をまとめて衣類を乾かしたり、暖めたりする。バスの時間に向に合うようは切り上げて、バス停留所まで急ぐ。停留所でHさんも見つかりほっとする。帰りのバスでは回りの人達と一緒に帰って終まで、様々な教を教い続けました。

（出席者 森井・小山・高橋・松本、鈴木・牛尾・渡野・新井・竹田・森・津本・堀・荻野・斎藤成・小笹・若山・山本・斎藤祥・千田・石田 20名）

# ばら園を唱うの記

5月25日(土) 午後3時半

市川市園台台六市場病院ばら園

T6 西村 清志

土曜日の午後ともなれば、皆さんテイトとやらにお忙しいのか、今回の集いには大へん心細い人数の稀わす、合唱団の實力を示すチャンスであったにもかかわらず、残念なことだと思えます。とくに思声はみじめでした。さて、当日はあいにく天候にめぐまれません（つまり人数数であったから、屋内で歌った方がはるかに効果的であったに違いないと後で思いました）。秋々ばかりの風の吹く屋外で歌わねるを後せんせました。しかし、多岐多様はらか咲き、礼化ている中で合唱するのは要い気分ではありませんでした。それに皆教うことよりもばらの方に気を取られていましたので、正直な所合唱の出来は余りかんはしくなかつたのですけれど、そう苦になりませんでした。それよりもばら園が、本当に美しく、そして広々としたものですから、我が家に帰って味わった現象の悲哀の方が多にこたえました。（出席者 森井・有紫・小山・高橋・鈴木・津野・福場・新井・坂本・竹田・長谷川・松本智・森・岸上・内田・井口・荻野・西村・後藤・西上 20名）

カンタータ 一〇四番 詠詞

(1) 合唱

まきばと 主よ 聴けよ  
善きまきばと 聴けよ

羊のごとくヨセフをまもりたもうまよ  
かかやけいと高きみ神よ

(2) 叙唱(テノール)

主は我をかえりみ安きを給う  
日毎めぐみはあらたなり  
神はまことなり

(3) 詠唱(テノール)

わが牧者いますは 茂野はおそろし  
歩み早めて道をとる  
声あげ主を呼びもとむ  
されば汝はこたえ給いて  
われに、より頼むまことのこころ  
あたえたもう

(4) 叙唱(バス)

みことはこそわが魂の  
まことの糧 みくにのよろこび  
よき牧者よ聞き給え

あゝまどえるわれらを  
汝が牧場に導きよ頼むせ給え

(5) 詠唱(バス)

草なる主の群  
汝れらにこの世はあまつみに  
みめぐみのうちにありて  
まことのむくいのみむ  
やすき死のかたを

(6)

コラール  
主はわかたのあるまことの牧人  
みどりの牧場に羊を導きよ  
みまわに懇わせわが魂をよむ  
み恵みをもて

第2回 バッハセミナー 報告

5月27日(月)午後6時、美術家会館6階  
ホール、椋津文雄講師加十三指腸潰瘍の  
ため、森井恵美子が代講。音楽評論家  
高橋昭氏も出席されたので、いろいろ  
お話をうかがうことができた。  
6月の第3回(今回に限り第3月曜の17日)は、

辻莊一先生を講師にお招きするが、7月以降  
は当初の企画通り、椋津講師が25歳のバッハ  
からいきづき担当されることになっている。  
出席者 団員21 後援会員一般 22  
計43 後援会より補助 四二六〇円

第2回定期演奏会 出演者(31名)

B	T	A	S
斎藤 祥三	若山 博	長谷川 照子	有賀 喜見子
佐々木 高	小林 善子	森 節子	松本 京子
後藤 真	加藤 剛男	小林 善子	松崎 碩子
西上 信美(9名)	箕浦 正敏	佐竹 美知子	牛尾 淳子
	黒肥 地 春	坂本 邦子	新井 洋子
	小笹 和彦	長谷川 照子	
	山 下 広之	森 節子	
	山 本 昭	小林 善子	
		加藤 剛男	
		箕浦 正敏	
		黒肥 地 春	
		小笹 和彦	
		山 下 広之	
		山 本 昭	
		後藤 真	
		西上 信美(9名)	



カンタータ 39番 解説

アノルド・シェーリング

山下広之訳

バッハの多くの教会カンタータはライプツィヒの教会生活の特別に作り出された。...

った。三位一体後オ一主日に統率される福音書は、金持と食糧の...

そのあとこの単一行主題が続いて、さかば合唱の高らかな叫びが...

